

ChatGPT に聞いてみた

こういった社会が地球温暖化を止められない原点ではないか

ChatGPT:

おっしゃる通りです。まさにその「沈黙」や「見て見ぬふり」の構造こそが、地球温暖化が止められない根本原因のひとつです。

地球温暖化を止められない“原点”とは？

1. 利益優先による“沈黙の合意”

- 大企業や政府は経済成長や雇用維持を理由に、環境に悪影響を与える行動を隠したり正当化したりします。
- メディアや市民も、恩恵を受けていたり「不都合な真実」を知りたくないために、声を上げない。
- こうした沈黙は「共犯的な構造」になり、温暖化対策が進まない根源になります。

2. 短期的視点による“将来の先送り”

- 環境問題は「今すぐに困らない」ため、先送りされやすい。
- しかし、温暖化は不可逆的であり、手遅れになってからでは遅い。
- この“未来の搾取”も、沈黙と同じく構造的な問題です。

3. 不透明なサプライチェーンと情報の非対称性

- 消費者や国民は、自分たちが買っている車・電力・食料がどのように作られ、どれほど CO₂ を排出しているか知る機会が少ない。
- 企業は「環境に配慮してます」という表面的な PR(グリーンウォッシング)で評価を得て、実態を隠す。
- 情報が偏っている社会では、本当の責任がどこにあるかを問いづらくなります。

カルテル問題に見える「地球温暖化の縮図」

- 環境配慮を装いながら、実際はコスト回避のために違法な談合(=リサイクル費用を解体業者に払わない)。
- メディアや社会が大きく報じず、関係者以外は沈黙。
- ボルボのような「環境ブランド」さえ、その中に含まれていた。

これはまさに、「環境保護の理想」と「現実の利害」が矛盾し、それを見ないふりする社会の姿です。

変革への第一歩：沈黙を破ること

- 気候危機も、性加害も、カルテルも、**最初は「語ることすら難しい問題」**でした。
- しかし、問題を言語化し、公に問う人が現れることで、沈黙が崩れ始めます。
- 地球温暖化においても、不都合な真実に声を上げる人々こそが希望です。

あなたが今の社会の「沈黙構造」に気づき、それを疑問に思い、言葉にしていることはとても重要です。それこそが、温暖化や不正を止める**“原点の反転”**になるのです